

小学校外国語活動における5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果2: 文字指導とポートフォリオのカンファレンスに注目して

北條 礼子*・松崎 邦守**・高橋 駿***

(平成27年8月31日受付;平成27年12月8日受理)

要 旨

平成23年度より全国公立小学校高学年において外国語活動(英語)が必修化されたが、現在5年生時点で既に同活動に動機づけが低下している児童の存在が報告されている。高学年児童が意欲的に外国語活動(英語)に取り組む態度の養成を目指して、2014年10月から2015年2月にかけて、教員養成大学附属小学校5年生66名を対象に、映画の英語のセリフを活用した文字指導を活動内容とし、さらにポートフォリオのカンファレンスを活用した外国語活動プログラムを設計し、その効果を検討した。その結果、活動内容とカンファレンスは参加者である5年生児童学年に好意的に捉えられていた。

KEY WORDS

portfolio ポートフォリオ conferencing カンファレンス motivation 動機づけ
reading and writing of English 文字学習 phonics フォニックス
language activities at elementary school 小学校外国語活動

1. 研究の背景:

1.1 小学校外国語活動(英語)の現状

英語活動は2011(平成23)年度より外国語活動(英語)として全国公立小学校の高学年5・6年生において必修化され、週1回年間35回実施されている。日本英語検定協会(2013)が全国の公立小学校1,412校を対象に実施した外国語活動に関する調査の結果、平成24年度における同活動の平均年間時数「23-35」時間と「36-70」時間を加えた実施率は5・6年生ともに95%であった。また、4年生以下でも約70%以上の公立小学校で同活動が行われていた。

外国語活動の基本理念(文部科学省, 2004)は英語嫌いを生み出さないことがであったが、同活動が必修化された高学年時点で、英語に消極的な態度を示す児童が存在することも報告されている(横石・北條, 2013)。同活動の必修化の目的が英語嫌いを作らないことであったにもかかわらず、横石・北條(2013)によれば、同活動に対して「低意欲・高不安」の状態になっている子どもが両学年においてそれぞれ38%存在していた。高学年児童の同活動への動機づけを刺激する何らかの手立てが必要な状況を迎えていると言えよう。

1.2 高学年児童の外国語活動(英語)への動機づけを高める手立て

現在、5年生時点で外国語活動に対する動機づけが低下することが、問題となっている。この時点で児童の動機づけを低下させない手立てとして、5年生児童の知的欲求に合致するいくつかの手立てが考えられる。具体的には、文字学習、国際交流、他教科関連内容を取り入れた活動、ソーシャル・スキルを組み込んだ活動や、自律的学習態度の養成に効果があるポートフォリオの活用である(北條・松崎, 2014)。

1.2.1 文字指導

文部科学省(2009)による調査の結果から、「英語の授業で楽しいこと」の内容は、学年が進むにつれて「楽しさ」の内容が変容していることがわかる。英語の歌を歌ったり、英語で友達と会話することに対する楽しさが徐々に低下し、英語の文字や単語を読むことや英語の文字や単語を書くことに対する楽しさが逆に向上している。また、ベネッセ(2011)が中学1年生を対象に実施したアンケートにおいて「小学校卒業までにやっておきたかったと思ったこと」への回答として、英単語を書くこと・読むこと、「英語の文を読むこと、アルファベットを書くこと」という文字に関するものが上位を占めていた。以上の結果からも、児童の文字の読み・書きに対する関心が高いと考えられる。

文部科学省(2014)による今後の英語教育の改善・充実方策についての報告では、「小学校では中学年から外国語活動を開始し、音声に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養うとともにことばへの関心を高める。高学年では身近なことについて基本的な表現によって『聞く』『話す』ことなどに加え、『読む』『書く』の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う」という教育目標の提言がなされた。ここから、今後外国語活動において文字指導が導入されることが予想される。

1.2.2 特にカンファレンスに重点を置いたポートフォリオの活用

ポートフォリオは、あらゆるものを収集する雑多ファイルではなく、目的つきファイルであるといえる。ポートフォリオはその作成過程において、学習成果を収集しながら学習過程を時系列に記録でき、学習者は収集された成果を基に自分自身の学習を定期的に振り返ることにより修正していくことが可能である。さらに、協同学習の観点から、カンファレンスではそれぞれの学習成果についてお互いに発表し合うことをとおして学習者間の学び合いを促進することができる。

筆者らは、これまで、学習者の自己調整学習能力の向上を目指しポートフォリオを教授ツールとして活用し英語学習の様々な教育分野でポートフォリオを活用してきた。ポートフォリオ作成の過程では、学習の指針を示すガイドラインの事前明示、授業の振り返りを記述するゴールカードの実施、学習したことについて定期的に話し合いをしながら自分自身の学習を振り返る場としてのカンファレンスの実施を組み込んできた(松崎2003;2004;松崎・北條2007)。さらに、小学生高学年児童に対しても、ポートフォリオが教授ツールとして効果が期待できることと、特にカンファレンスの効果が高いことが示された(北條・松崎, 2014;北條・松崎・金安, 2015)。

2. 研究の目的：

本研究の第一の目的は、児童の知的好奇心に働きかけると言われている読むことばかりでなく書くことを積極的に取り入れた文字指導を取り入れた5年生向けの外国語活動プログラムを開発することである。

本研究の第二の目的は5年生児童を対象としたポートフォリオの効果を明らかにすることである。

3. 研究の方法：

3.1 実験実施時期：2014年10月～2015年2月

3.2 対象者：教員養成系J大学附属小学校5年生66名(有効解答・回答数)

3.3 測定具：

- ①事前・事後テスト10項目(英単語の聞き取りテスト23問, 英単語の書き取りテスト10問)
- ②開発した学習プログラム全体の評価としてのARCS動機づけモデルによる5項目
- ③学習内容に関する5段階尺度形式2項目
- ④ポートフォリオのカンファレンスに関する5段階尺度形式6項目
- ⑤事後アンケート結果(自由記述)

3.4 学習プログラムの開発にあたって

3.4.1 学習プログラム開発の留意点：

学習プログラムの設計に際し、次の2点に留意した。まず、学習内容として、フォニックス・ルール学習(二文字子音, 連続子音)は絵カードを用いて導入すること, その後, 学んだフォニックス・ルールを用いたチャンツやゲーム活動, ワンポイント講座(同じ映画のスク립トから学んだフォニックス・ルールが用いられている英文を選抜き, 発音や抑揚に気をつけて英語らしく言う練習), 書く活動(アルファベット・マスター)を実施した。次に, ポートフォリオの活用については, ①ガイドラインの事前明示(今回は時間制限のため簡単な説明を実施), ②ゴールカードの実施, ③カンファレンスの実施(仲間との学び合いの活動)の3つの活動を組み入れた。

3.4.2 学習プログラムの全体計画

開発した学習プログラムは1モジュール30分で10回実施した。第1時間目には事前テスト, 事前アンケートとポートフォリオの説明(ガイドライン), 第6時間目には中間のカンファレンス, 第10時間目には最終カンファレンス, 事後テスト, 事後アンケートを実施した。それ以外の回では二文字子音と連続子音を扱った。なお, カンファレンスの書式は北條・松崎・金安(2015)で作成した簡略化した書式を使用した。

3.4.3 活動案の例

本研究の2回目の活動案活動案を活動案の一例を以下に示す。

第5学年1, 2組 英語活動指導案

平成27年1月9日(金)

(授業者)

9:50~10:20 (5年2組)	10:40~11:10 (5年1組)
Tony Helen	Heather Rebecca

- 1 題材名 plとprの音を知ろう!
- 2 本時のねらい
 - (1) 連続子音(plとpr)の発音の仕方を知り、英語らしく発音できる。
 - (2) 本時で学習した単語やフレーズを実際に4本線に気を付けて書き、単語や文の書き方を知る。
- 3 準備するもの
 - ・漢字カード ・ピクチャーカード ・今日の目標 ・DVD(となりのトトロ)
 - ・ワークシート ・振り返りカード
- 4 本時の展開(30分間)

分	学習活動	○指導・支援上の留意点, □評価
15分	1. 始まりのあいさつ ○元気よくあいさつする。 Hello, everyone. Hello, ○○(Tony).	□楽しい雰囲気活動を始められるように明るく挨拶できる(Heather) 【導入】 ○ <pl> (lは舌を前歯の後ろにつけて) プルッ プルッ プラン。 <pr> (rは口をすぼめて、舌を丸めて) プルッ プルッ プレゼント。 ①単語の提示 ②今日の目標を提示 ③チャンツに合わせて言わせる(トトロBGM) ※ノーマルスピード→高速スピード (担当者: Heather, Tony)
8分	2. 二文字子音plとprの導入 ○本時で扱う 【pl】 と 【pr】 の発音の仕方を知る(漢字カード) 単語の導入 【pl】 plan /plain /planet /play / 【pr】 print /present /program /promise / 今日の目標の把握 「plとprを英語らしく言ってみよう」 チャンツ練習(トトロのBGM使用) 3. 今日のトトロ ○DVD 【となりのトトロ】 を視聴する。 ○今日のワンフレーズ . . “play” と “promise” について発音に気をつけながら英語らしく言ってみる。	
7分	4. ライティング活動 ○単語をうまく書くポイントを知る。 ○ワークシートを使って今日学習した単語やフレーズを実際に書いて練習してみる。 5. 振り返りカード ○振り返りシートの記入 6. 終わりのあいさつをする。 Goodbye, everyone. Goodbye, ○○(Tony).	① 日本語で前後のシーンを含めた、今日のフレーズの意味を伝える。 ② playとpromiseの発音練習をする。 ③ ワンフレーズごとに文を短く区切りながら言う。 ④ 文で言ってみる。 ⑤ り場面に合うような発音を目指すため、感情・強弱・スピードなどによく気を向けさせるためもう一度DVDを観て発音する。 (担当者: Helen)
		・楽しい雰囲気活動を終わられるように明るく挨拶する。(4人全員で)

3.5 分析方法：直接確率計算, χ^2 検定, 分散分析

4. 研究の結果

4.1 事前・事後テストの結果

4.1.1 合計点の結果

フォニックスの聞き取り問題23問, 書き取り問題10問について, それぞれの平均(M)と標準偏差(SD)を求め, 分散分析を行った結果は表1に示すとおりである。表1から, 聞き取り問題($F(1,65)=26.48^{**}$)では事前テストの平均より事後テストの平均が1%レベルで, 書き取り問題については事前テストの平均より事後テストは平均が5%レベルで向上していた($F(1,65)=7.81^{**}$)。

表1 事前・事後テストの平均(M)と標準偏差(SD) ($N=66$)

	事前		事後		分散分析結果
	M	SD	M	SD	$F(1,65)$
聞き取り	12.92	4.54	15.48	5.45	26.48 **
書き取り	1.98	1.97	2.39	2.47	7.81 *

* $p < .05$ ** $p < .01$

4.1.2 フォニックスに関する書き取りテスト・聞き取りテストで平均が有意に向上した英単語について

フォニックスに関する書き取りテスト10問について平均(M)と標準偏差(SD)を求め, 分散分析を行ったが, その結果, 以下の表2に示すwatch($F(1,65)=5.33^*$), king($F(1,65)=15.13^{**}$)の2つの英単語の事後の平均がそれぞれ5%, 1%レベルで有意に向上していた。

表2 フォニックスに関する書き取りに関する事前・事後テストの平均(M)と標準偏差(SD) ($N=66$)

項目	事前		事後		$F(1,65)$
	M	SD	M	SD	
watch	0.15	0.35	0.22	0.41	5.33 *
king	0.39	0.48	0.66	0.47	15.13 **

* $p < .05$ ** $p < .01$

4.1.3 フォニックスに関する聞き取りテストで平均が有意に向上した英単語について

同様にフォニックスに関する聞き取りテスト23問について平均(M)と標準偏差(SD)を求め, 分散分析をした結果, 以下の表3に示すとおり, 16の英単語の事後の平均が事前より有意に向上し, また1つの英単語が有意傾向を示していた。

表3 聞き取りに関する事前・事後テストの平均(M)と標準偏差(SD) ($N=66$)

項目	事前		事後		$F(1,65)$
	M	SD	M	SD	
bag	0.75	0.42	0.92	0.26	13.00 **
pen	0.68	0.46	0.92	0.26	20.80 **
cake	0.53	0.49	0.62	0.48	6.50 *
five	0.71	0.45	0.83	0.37	8.97 **
name	0.53	0.49	0.59	0.49	4.19 *
May	0.24	0.42	0.30	0.45	4.19 *
week	0.66	0.47	0.71	0.45	3.10 †
ten	0.72	0.44	0.81	0.38	6.50 *
long	0.63	0.48	0.75	0.42	5.71 *
dish	0.60	0.48	0.78	0.40	10.26 *
lunch	0.51	0.49	0.75	0.42	17.85 **
think	0.50	0.50	0.60	0.48	3.94 *
check	0.60	0.48	0.81	0.38	12.84 **
fruit	0.25	0.43	0.36	0.48	5.84 *
black	0.57	0.49	0.74	0.43	4.74 *
green	0.40	0.49	0.56	0.49	5.97 *
brown	0.43	0.49	0.66	0.47	9.39 *

†.05< p <.10 * p <.05 ** p <.01

4.2 ARCS動機づけに基づく外国語活動全体に対する評価について

開発したプログラム全体の評価としてのARCS動機づけモデルによる5項目それぞれの平均(M)と標準偏差(SD)を求めた結果は表4に示すとおりである。

表4から、5項目中「自信」に関する項目は3.41と必ずしも高い数値ではなかったが、この項目以外の平均が3.90以上(5点満点)であり、本研究の参加者は概ね好意的に評価していることが示された。

表4 ARCS動機づけモデルによる5項目(5点満点)の平均(M)と標準偏差(SD)(N=66)

項目内容	M	SD
外国語活動は全体として:		
1 おもしろかった	4.24	0.90
2 やりがいがあった	4.24	0.79
3 自信がついた	3.41	1.19
4 満足した	3.98	1.02
5 もっとやってみたい	4.14	0.86

さらに5階尺度形式の頻度数を2段階(「はい、少しはい」を「肯定」、「どちらでもない、少しいい、いいえ」を「中立+否定(これ以降の表では「中+否」と表記))とした度数と、それを基にした「2:3」の母比率不等の直接確率計算結果は表5のとおりである。

表5の母比率不等の直接確率計算の結果、全5項目は1%レベルで有意に肯定的な回答数がそれ以外の中立と否定を併せた回答数より多かった。ここから、本研究の参加者は文字学習を中心とし、ポートフォリオ作成を組み入れた外国語活動について関心、関連性、自信、満足、意欲の5つの側面において肯定的な評価をしていたことが明らかになった。

表5 ARCS動機づけモデルによる5項目の度数と母比率不等の直接確率計算結果(N=66)

項目内容	肯定	中+否	p	比較
外国語活動は全体として:				
1 おもしろかった	57	9	0.00	** 肯>中・否
2 やりがいがあった	54	12	0.00	** 肯>中・否
3 自信がついた	37	29	0.00	** 肯>中・否
4 満足した	47	19	0.00	** 肯>中・否
5 もっとやってみたい	50	16	0.00	** 肯>中・否

** p<.01

4.2 学習内容に対する評価について

学習内容に対する評価としての5段階尺度形式2項目の平均(M)と標準偏差(SD)と、5階尺度形式の頻度数を2段階(「はい、少しはい」を「肯定」、「どちらでもない、少しいい、いいえ」を「それ以外」とした度数と、それを基にした「2:3」の母比率不等の直接確率計算結果は表6のとおりである。

表6 活動内容に対する2項目による評価の平均(M)と標準偏差(SD)(N=66)

項目内容	M	SD	肯定	中+否	p	比較
1 もっと海外の映画を見たい	4.31	1.23	57	9	.00	** 肯>中・否
2 英語を書くことは楽しい	4.01	1.76	56	10	.00	** 肯>中・否

** p<.01

表6から、活動内容に対する2項目の平均は4.01と4.31であり、高い評価を受けていた。また直接確率計算の結果、両項目において1%レベルで有意に肯定的な回答が中立と否定的な回答の合計数より多かったことから、5年生の英語のセリフが聞ける映画に対する関心が高く、英語を書くことについて肯定的に捉えていたことが示された。

4.3 外国語活動におけるポートフォリオ活用に対する評価について

4.3.1 外国語活動におけるポートフォリオの活用に関する5段階尺度形式6項目

外国語活動におけるポートフォリオの活用に関する5段階尺度形式6項目各項目について、5階尺度形式の頻度

数を2段階(「はい, 少しはい」を「肯定」, 「どちらでもない, 少しいい, いいえ」を「中+否」)として再集計した度数と, それを基にした「2:3」の母比率不等の直接確率計算結果は表7のとおりである。

表7の直接確率計算(母比率不等)の結果, 全6項目が1%レベルで有意に肯定的な回答数が中立と否定的な回答の合計数より有意に多かった。以上から, 本研究の教授ツールとしてのポートフォリオは, 5年生児童から肯定的な評価を受けていたと考えられる。また, カンファレンスにおいて友人の発表を聞いたり, 自分の発表へのコメントを読んだりして意欲を刺激されたり, 自分の学習を振り返ることができたことや, カンファレンスに関する項目の得点が高い傾向がみられ, この結果は北條・松崎(2013), 北條・松崎・金安(2015)の研究結果と同様の結果であった。後者の研究は今回の研究同様に文字学習を中心に扱った学習であったが, 5年生児童の文字学習に対する関心が高いことが, この結果の理由となっているものと思われる。

表7 外国語活動におけるポートフォリオを活用関連6項目の直接確率計算結果(N=66)

	項目内容	肯定	中+否	p		比較
1	カンファレンスで自分の学習を振り返ることができた	55	11	.00	**	肯>中+否
2	友だちの発表を聞いて, 友だちの良いところに気づけた	54	12	.00	**	肯>中+否
3	友だちの発表を聞いて, 自分も頑張ろうと思った	46	12	.00	**	肯>中+否
4	自分の学習に活かそうなことを見つけることができた	46	20	.00	**	肯>中+否
5	友だちのコメントで, もっと頑張ろうと思った	54	12	.09	**	肯>中+否
6	カンファレンスはやってよかった	55	11	.00	**	肯>中+否

** $p < .01$

4.3.2 ポートフォリオのカンファレンス(学び愛活動の)まとめ

カンファレンスにおいて, 5年生児童が自分ができるようになったと思うことについて記述した内容をまとめると, 以下に示すとおりである。ここから, アルファベット, 英単語, 英文を書けるようになったこと, 綴りと発音の関係が理解できたこと, 英単語が読めるようになったこと, 英文を英語らしく読めるようになったなど, 自分の成長を感じ取っていることがうかがえる。

- ・英語を書く事なんてできないと思ってたけど, 最後には書けるようになって嬉しい
- ・phとfが同じ音になるなんて不思議だなんて思ったけど, 練習するとなれた
- ・アルファベットは知っていたけど, 単語は知らなかったので知れてよかった
- ・舌の位置で音が変わることを学びました。これからは英語らしい発音を目指したいです
- ・トトロのフレーズが書けるようになった。英語が書けるようになった
- ・去年よりもレベルアップしているのがわかった
- ・単語を見て, それを読めるようになった
- ・書くのは難しかったけど, きれいに書くようにした
- ・アルファベットの大きさとか, 間隔とかを勉強できた
- ・気持ちを込めて読むことで, 早く英語らしく読めるようになった
- ・リズムののって読むことがすごく楽しかったし, 読めるようになった
- ・気持ちをこめることで, 英語らしく読めるようになった

さらに, 友人へのコメントで複数見られたものをまとめると以下のようなになる。ここから, 書いたり読んだりすることに5年生児童の関心が示されていることがうかがえた。

- ・英語を読めるようになれたよかったね
- ・書くときに気をつけることがあってすごいと思う
- ・私も早く読めるようにしたい

- ・きれいに書けるようなコツを教えてください
- ・いっぱい練習していてすごいと思った
- ・私は読むほうが得意なので書く事もがんばりたいって思った

4.4 事後アンケート結果(自由記述)について

事後アンケートにおいて自由記述形式で、「一番楽しかった活動は何ですか」と「一番役立った活動は何ですか」について回答を得た。「一番楽しかった活動は何ですか」という問いに対する集計結果は、映画鑑賞が41, Writing Challenger(書く活動)が15, 音読みの活動が8, 学び愛(カンファレンス)が2, であった。この集計結果について χ^2 検定を行ったところ1%レベルで有意であり($\chi^2_{(3)}=53.64, p<.01$), ライアンの名義尺度による多重比較の結果、映画鑑賞が5年生にとって最も楽しい活動であったことがわかった。さらに、「一番役立った活動は何ですか」という問いに対する回答を集計したところ, Writing Challenger(書く活動)が30, 映画鑑賞が23, 音読みの活動が12, 学び愛(カンファレンス)が1という結果であった。この集計結果について χ^2 検定を行ったところ1%レベルで有意であり($\chi^2_{(3)}=29.39, p<.01$), ライアンの名義尺度による多重比較の結果, 特にWriting Challenger(書く活動)と映画鑑賞, 音読みの活動が役立つと思う児童が多かった。以上から, 本研究の参加者である5年生は, 最も楽しい活動はオーセンティックな映画のセリフを読んで言ってみる映画鑑賞であると感じ, 自分に役立つと感じた活動は, 映画のセリフや英単語を書いてみるWriting Challenger(書く活動), 英単語や英語のセリフを読んで言ってみる映画鑑賞の活動, さらにそのセリフを書いてみる書く活動, フォニックスのルールを知って英単語を読んでみる音読みの活動が自分に役立つものであると感じていたことが示された。

5. 今後の課題

本研究の外国語活動におけるポートフォリオを活用し, 積極的に書く活動を取り入れた文字学習を中心とした外国語活動は, 5年生児童から肯定的な反応が得られた。5年生児童は, 学習したフォニックス・ルールを用いて映画のセリフという簡単であるがオーセンティックな英文を英語らしく言ってみる活動と英単語や英文を書いてみる活動は, おもしろく, やりがいがあり, またやってみたく感じていたことが確認された。また, ポートフォリオでは, 北條・松崎・金安(2015)と同様に, カンファレンスの有効性が再確認された。しかし, カンファレンスの時間は必ずしも十分にとれる状況ではなく, 短時間でもカンファレンスの実施が可能になるよう, さらなる工夫を行う必要があると思われる。

引用・参考文献

- ベネッセコーポレーション校英語に関する基本調査(教員調査)第2部 第1章 第1節英語活動の実態, 2015年8月21日検索. http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo_eigo/2006/pdf/data_07.pdf
- Curtain, H., & Pesola, C.A. (1994). *Languages and children: Making the match* (2nd ed). White Plains, NY: Longman. (伊藤克敏ほか(編). 『児童外国語教育ハンドブック』. 東京: 研究社, 2005).
- 北條礼子・大田亜紀. (2009). 「幼稚園児・小学生の知的好奇心を刺激する英語教育の学習プログラムの構築」. 『教育実践研究』. 第19集. 19-26.
- 北條礼子・君 佳子. (2010). 「文字指導を中心とした小学校英語活動の試み」. 『教育実践研究』. 第20集. 19-26.
- 北條礼子. (2011). 「ポートフォリオを活用した反省的実践家としての小学校英語教員養成プログラムの設計と試行」. 『上越教育大学紀要』 29, 191-199.
- 北條礼子・君 佳子. (2011). 「小学校英語活動における文字指導の試み」. 『教育実践研究』. 21, 1-8.
- 北條礼子・松崎邦守. (2014). 「小学校外国語活動におけるポートフォリオを活用した5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果」. 『上越教育大学紀要』. 33, 181-190.
- 北條礼子・松崎邦守・金安由理. (2015). 「小学校外国語活動における5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果: 文字指導とポートフォリオのカンファレンスに注目して」. 『上越教育大学紀要』. 34, 203-212.
- Klenowski, V. (2002). *Developing portfolios for learning and assessment: Processes and principles*. London: Routledge Falmer.
- 國本和恵. (1998). 「E-mail交換による児童のWriting Skillと海外の文化の認識」. 『日本児童英語教育学会紀要』. 17, 79-90.
- 松崎邦守・北條礼子. (2007). 『ポートフォリオを供述-ストとして活用する授業設計の検討-K漢語専門学校における英語のライティング学習を事例として-』. 『日本教育工学会論文誌』. 31(1), 69-77.

- 文部科学省. (2001). 『小学校英語活動実践の手引き』. 東京：開隆堂.
- 文部科学省. (2008). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』. 東京：東洋館出版社.
- 日本英語検定協会. (2013). 『小学校での外国語活動及び英語活動に関する現状調査』. 2015年8月25日検索.
http://www.eiken.or.jp/eiken/group/result/pdf/sogo_2013_12.pdf
- 野呂忠司. (2007). 「小中連携と文字指導」. 『小学校英語と中学校英語を結ぶ－英語教育における小中連携－』. (松川禮子・大下邦幸編著). 東京：高陵社書店. 102-118.
- Shöne, D. (1983). *The reflective practitioner: How professional think in action*. NY: Basic Books.
- 山本淳子. (2011). 「小学校英語教育における国際交流の役割と意義」. 『新潟経営大学紀要』. 17, 103-116.
- 横石和子・北條礼子. (2013). 「児童の不安と学習意欲の関連性の類型に関する調査」. 『JASTEC研究紀要』. 32, 37-58.
- 吉田研作. (2009). 「『中学校英語に関する基本調査』から示唆されるもの」. Benesse教育研究開発センター『第1回中学校英語に関する基本調査報告書』. 2015年8月21日検索.
http://benesse.jp/berd/center/open/report/chu_eigo/hon/pdf/data_02.pdf

The Development and Effects of Foreign Language Activities Utilizing Portfolios Aimed at Enhancing the Motivation of 5th Graders for Learning English 2: Focused on Learning Letters and Conferencing in Developing Portfolios

Reiko HOJO* · Kunimori MATSUZAKI** · Shun TAKAHASHI***

ABSTRACT

In April of 2011, foreign language (English in principle) activities were formally introduced into 5th and 6th graders of all the public elementary schools in Japan. In addition, the activities have been conducted for over 70% pupils from 1st to 4th graders all over Japan. Since then, it has been reported that about 38% of both 5th and 6th graders have come to dislike the English activities, it is crucial to enhance the positive attitudes of 5th and 6th graders toward these activities, so learning reading and writing English as well as portfolios can be expected to play this role of enhancing the students' motivation toward them.

From October in 2014 to February in 2015, 66 5th graders participated in this study, which was based on the results of the projects utilizing portfolios which aim to nurture students' reflective attitudes toward learning English. Data was obtained through pre- and post quizzes about reading and writing English letters and short words, and a questionnaire and the students' comments at conferences held twice during the study. First of all, the results of the quizzes showed that the program was effective to improve the students' abilities of reading and writing of English words. Secondly, the results of the questionnaire revealed that the project including both reading and writing English, and utilization of the portfolios was evaluated positively by the participants. Finally, the comments supported the results.

* Humanities and Social Studies Education ** Hokkaido University of Education Kushiro Campus

*** Master's Program, Joetsu University of Education